

## 日当直、こんな時どないするねん～あんたの疑問こたえまっせ！！

## 一般検査（尿一般検査）

◎木下 陽介<sup>1)</sup>独立行政法人 労働者健康安全機構 山陰労災病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

現在、救急医療や集中医療が行われる中、多くの病院で日当直体制がとられており、検査室には質の高い検査結果を24時間、迅速に報告することが求められている。

一般検査部門に関しては、日当直帯に尿定性検査・尿中有形成分検査（以下、尿沈渣検査）、髄液検査等を実施している施設は少なくない。しかし、日当直勤務に当たるスタッフが日頃から全ての業務に携わっていれば良いが、多くの病院が細分化による担当部署制を設けているため、スタッフ全員が全ての業務に精通しているとは限らない。なかでも一般検査においては、髄液検査（細胞数算定・多形核球比率）や尿沈渣検査は形態学検査であるため、個人差を生じやすく、不安を抱えたスタッフが検査結果報告を行っているのが現状である。通常 日当直を行うに当たっては、事前のトレーニングや継続的なスキルアップが必須であり、当院においてもプログラムを準備し、日当直の不安軽減に努めている。

今回のワークショップでは「日当直、こんな時どないするねん～あんたの疑問にこたえまっせ！！」をテーマに、一般検査部門では尿一般検査にスポットをあて、当検査部で経験した臨床からの称賛事例・叱責事例の報告と、各施設において悩みの種となっている尿沈渣検査における類似した有形成分の鑑別について簡単に説明する。最後に当院で行っている日当直者へのスキルアップ教育についても紹介する。

## 【尿沈渣検査における類似した有形成分の鑑別】

尿沈渣検査は、尿中に出現する有形成分を観察する検査である。その尿沈渣に出現する有形成分は多種多様であるため、鑑別が非常に複雑である。

今回は、日当直帯で重要視される赤血球・白血球・細菌について、類似した有形成分との鑑別法を簡単に説明する予定である。

## 【おわりに】

日当直における一般検査（尿沈渣検査・髄液検査）は、日常的に業務に接していない臨床検査技師にとっては苦痛の一つである。特に尿沈渣検査においては、病院の規模や臨床医の考え方によっても対応は様々であるが、慣れない技師が誤った結果を臨床に報告することは信頼を失うばかりではなく、患者の生命に関わる場合もあり得るのでデータの統一化は重要であると考え。そのためにも、日当直者のスキルの向上を目的とした尿沈渣検査トレーニングを行うことにより、効率的な育成と指導者間での教育格差の低減が図れると考える。

今回のワークショップを通して、少しでも問題解決・不安解消への糸口が見つかり、更なる臨床支援への貢献に繋がれば幸いである。

連絡先：0859-33-8181（内線 5283）